

その他報告④

令和2年度検定合格となった中学校用社会科教科用図書について

【令和3年7月8日 教育委員会会議 その他報告 資料一覧】

1 資料1

令和2年度検定合格となった中学校用社会科教科用図書について

2 資料2

自由社及び日本文教出版 調査報告書

資料 1

令和 2 年度検定合格となった中学校用社会科教科用図書について

【経緯について】

- ・令和 2 年度、自由社の「新しい歴史教科書」が検定合格。
(令和元年度は不合格。令和 2 年度の再申請により合格)

【調査研究について】

- ・7 / 2 (金) 選定会議 (専門調査研究部会) 実施。(資料 2 参照)

【採択について】

- ・中学校社会科「歴史的分野」については、現状通りの「日本文教出版」とする。

資料2

自由社及び日本文教出版 調査報告書

社 会 (歴史的分野)

観 点	発行者名 自 由 社
1 各 教 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ おおむね教科の目標に結び付く内容となっている。 ・ 中学生の発達段階では、理解が難しい内容（冊封体制、ナショナリズム、黄禍論、マルクス理論等）が散見され、内容の程度として、やや難しいと考えられる。また、文章の中の言葉も威容、慣例等やや難解な言葉も含まれる。 ・ 金玉均、ゾルゲ、ケマル・アタチュルク等多くの人物や廃仏毀釈、尼港事件、通州事件など多くの事件が羅列されており学習内容が多く、難しい。
共 通 の 選 定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もっと知りたい」や「調べ学習のページ」などで、発展的な指導が行えるように配慮されている。 ・ 近代でも、元号も記されているので、時代区分がわかりやすい。 ・ 時代の特徴を考えるページでは、時代の特徴について書く活動を設定しているが、下に課題の例が示してあり、言語活動の充実が十分に図れない。 ・ 単元末の対話とまとめのページでは時代の特徴については兄弟や姉妹の対話によって時代の特徴をまとめてあるだけで、生徒同士の言語活動を充実させ、考えを広げたり、深めたりするものになっていない。 ・ コラムなどの発展的な学習も設けられているが、中学校で学習する内容よりも難しいものが多く、生徒の負担が過重になると考えられる。 (例 p 58①～⑥で話をつくる。 p 235 ゾルゲ事件)
の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の量としては、適当である。 ・ 他者の教科書よりも文字数、行数（通常 35 行～38 行、本者 40 行）ページ数が多いので、一単位時間での学習としては、内容量が多い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界各国・王朝の興亡を一目で見ることができる年表がある。 ・ 通し番号になっており、見やすい。 ・ 年表は、色が余り使われておらず、構造化されていないため、見にくい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料は、落ち着いた配色で見やすい。 ・ ユニバーサルカラー、フォントを使っていない。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「外から見た日本」や多くの人物の紹介があり、生徒にとって興味・関心を高める内容となっている。 ・ 資料や解説が豊富にあり、様々な学習形態が考えられる。 ・ 歴史的な見方・考え方を働かせる単元末の課題では、「比較」のみであり、「原因と結果」「関連づけ」といった視点がないため、十分に学習を深めることができない。 ・ 歴史の転換期や大きな時代の特色を取り上げ、その特色を考察させる場面がない。 ・ 単元のまとめには、時代を一言で表現する活動があるが、そのすぐ下に答えが書いてあったり、学習課題について、登場人物の吹き出しがその答えを述べてあったり（p 43、P75 吹き出し、P50 等）と、生徒が歴史的事象について主体的かつ多面的・多角的に考察することが難しく感じられる。 ・ 毎時の学習の問いは、設定されているが、単元を貫く問いが提示されていないため、単元を通じた課題解決的な学習に取組みづらい。

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	1	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領と照らし合わせても、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図れる内容となっており、資料や文章の難易度も適切である。 ・ヒントの数、ステップの数、文字数等が豊富で、学習課題や本文の内容は、その学年の発達段階に適応したものになっている。
		(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 小学校の学習内容や他分野との関連をページ下部に示している。 ・(学校) 資料を基に選択・判断しながら時代の転換期を捉えることができる「歴史にチャレンジ」や「アクティビティ」を設けており、言語活動の充実を図っている。 ・基本用語解説が本文ページ内にあり、生徒の学習補助に役立つ。
		(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が精選され、予備時数が20時間と十分に配当されて、生徒の実態に即して弾力的に授業計画を立てたり、評価に時間を費やしたりしやすい。 ・見開き2ページで1授業時間を原則として構成している。
		(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 現行とは異なり、帝国議会に関する学習と不平等条約改正に関する学習が別単位時間の学習として再編される等1単位時間の学習として、まとまりをもたせた構成となっている。(pp. 200～203) ・(学校) 巻末の年表は、写真資料や学習単元も明記されているので、自学自習に使いやすい。 ・単元のまとめには、答えのページが示してあり、生徒が自学自習を行うのに使いやすい。 ・各ページの最後にある「深めよう」や「確認」には、ヒントやキーワードがあまり用意されておらず、記述の苦手な生徒は取組みにくいところがある。
		(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 歴史的な文化作品や遺産の写真等の図版が大きく掲載されている。 ・隣り合う色がはっきりと違いの分かる配色をしており、色覚特性の生徒への配慮がなされている。(p. 168: アメリカ合衆国の領土の拡大の地図) ・(学校) ユニバーサルデザインフォントが使用されており、行間も適切で見やすい。
2	選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 1単位時間ごとに、学習課題のすぐ下に「見方・考え方」の欄を設け、さらに「比較」「差異」「推移」「つながり」等視点を掲示しているため、歴史的な見方・考え方を働かせやすい。 ・生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して、「時代の特色」を捉えられるように、第2～6編では、「見通す(導入ページ)」→「考察する(本文)」→「考察する(特設)」→「ふりかえる(まとめページ)」という構成がされている。 ・(学校) 各編の導入ページに「めあて」として単元を貫く問いが設定されており、各時代の学習に対して生徒が見通しをもつことができる ・生徒が基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着できるように、見開き2ページの中で、「学習課題」(一単位時間で学ぶこと)や「見方・考え方」(どの視点や方法に着目するのか)、「深めよう」(学習課題を深める問い)、「確認」(学習課題に対応する問い)が設けられている。 ・我が国の歴史の背景となるような世界の歴史を理解するため、各編・章の導入ページに世界地図が設けられている。 ・「地域調べ」では、北九州市の公害克服について2ページにわたって取り上げられており、北九州市の生徒のシビックプライドを醸成するうえで大変有効である。 ・(学校) 時代の特色をとらえることをねらいとした「アクティビティ」が設けられており、情報を読み取り、比較し、考察する力を育む活動が設定されている。(例: p. 53 文字の比較、p. 105 法の比較等) ・(学校) コラムとして「先人に学ぶ」のコーナーを設け、さらに、生活や文化の発展に寄与した人を取り上げる等、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物等を尊 	

重しようとするものの大切さについての自覚が深められるようになっている。

- ・ (市民) 各時代の人々の営みに関する題材において、女性の生きる姿を具体的に描くことに力点を置いている。
- ・ (学校) 単元の学習課題があらかじめ設定されており、主体的に課題を発見できるような導入の工夫があまりない。
- ・ 世界の歴史の内容が用意されているが、特に古代から中世においては単独で構成されているものが多く、日本の歴史との関連や影響が理解しづらい。
- ・ 各ページでのまとめが「説明しよう」という説明的知識を確認することが多く、複数の立場からのから広く深く思考したり、選択・判断したりする内容になっていない。